

おれんじニュース

No267

2012年6月号



大崩・宇土内谷の登山口雨の日だけ現れる落差 60mの滝 4月30日

★ 会員一人一人が運営委員です。みんなでオレンジ HC の運営に参加しましょう。

★集会・委員会のお知らせ★ 山行の一步は集会参加から

	2012/6月	2012/7月	時 間	場 所
運営委員会	13日(水)	11日(水)	19:00~21:30	西諫早公民館
ひまわり集会	7日(木)	6日(金)	13:30~15:30	西諫早公民館
全体集会	27日(水)	25日(水)	19:00~21:30	西諫早公民館





6月山行計画

部	山行部	技術研修部	自然保護部	技術研修部
月・日	3日(日)	6/8(金)~6/12(火)	15日(金)	17日(日)
山名(行事)	九重(平治岳, ひいじだけ) (1642.8m)	花の島佐渡で花トレッキング	五家原岳クリーンハイク	石谷山(754.4m) 雲野尾峠(400.1m)
地 図	大船山		多良岳	中原(佐賀県)
集合時間	諫早駅裏 6:20 西諫早駅 6:30	諫早 7:00 出発	西諫早駅 8:00	諫早駅裏 8:00 西諫早駅 8:10
難易度	初~中級		全員参加で	初級
帰着時間	20:00頃	6/12 諫早着 20:00	16:00頃	17:20頃
歩行時間	5.5h		4.5h	4.5h
交通手段	マイクロバス	レンタカー	マイカー	マイクロバス
宿泊施設	日帰り	バス&旅館	日帰り	日帰り
温泉	時間次第で♨			時間次第で♨
参加費	5000円	80000円位	1000円	3500円
申込期限	定員になり次第	随時(15名まで)	随時	定員になり次第
集 約	田中	佐原	中村	佐原
備 考	ミヤマキリシマの綺麗な時です。	アオネバ溪谷とドンデン高原トレッキングとキバナカンゾウの鑑賞	シャクナゲを眺めながらゴミ拾いをしよう	御手洗ノ滝は左右と上部に石仏が飾られていて見事!
感想文提出	6/13	6/22	6/25	6/27

佐渡トレッキング参加者へおしらせ

※ 6/1(金) AM10:00より西諫早公民館1Fロビーにお集まりください。

連絡 松園

技術研修部より

5月26日(土) セルフレスキュー (JR西諫早駅9:30集合)

6月30日(土) セルフレスキュー (JR西諫早駅9:30集合)

7月以降の沢登り

7月21日(土) 滝沢谷(佐賀県三瀬) (JR西諫早駅9:30集合)

7月28日(土) 洗谷から井原山登山 少し沢登り (JR諫早駅裏7:00
JR西諫早駅7:10集合)

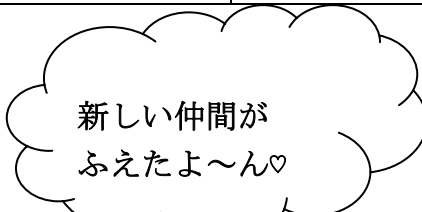


7月山行計画

部	山行部	ひまわり山行部	技術研修部	技術研修部
月・日	7日(土)	13日(金)	15日(日)	28日(土)
山名 (行事)	浅間山 (831.5m)	琴平岳(334m) 烏甲山(769m)	夜峰山(912.9m) お竈門山(1152.5m)	井原山 982.4m (洗い谷ルート)
地図	英彦山	多良岳	阿蘇山	雷山・脊振山
集合時間	諫早駅裏 6:20 西諫早駅 6:30	諫早駅裏 8:00 西諫早駅 8:10	諫早駅裏 6:20 西諫早駅 6:30	諫早駅裏 7:00 西諫早駅 7:10
難易度	初級	少し健脚	体力1 危険度2	初級～中級
帰着時間	18:00頃	17:00頃	19:00頃	17:20頃
歩行時間	3h	4h	3h	4h
交通手段	マイクロバス	マイカー	マイクロバス	マイクロバス
宿泊施設	日帰り	日帰り	日帰り	日帰り
温泉	有り(福祉センター♨)		垂玉温泉	時間次第で♨
参加費	5000円	1500円	5000円	3500円
申込期限	定員になり次第	定員になり次第	定員になり次第	定員になり次第
集約	田中	林	佐原	佐原
備考	濃密な自然が残された奥山	琴平の後南河内に移動して登ります	名の有る山に囲まれて目立たないけど魅力ある山。	背振山地の第2の高峰へ洗い谷から望みます。
感想文提出	7/17	7/23	7/25	8/8

「円能寺 政弘」さん

もうオレンジでは顔なじみです。今度の登山教室の参加で正式に入会されましたよ。(*^_^*)
諫早市内在住



「久保 陽子」さん

毎朝御館山でご主人といっしょに訓練されています。登山教室の参加とともに入会されましたよ。(*^_^*)

2012年4月/5月の山行報



4月29日(日)～30日(月)

丹助岳(815m)・大崩山(1643.3m)

(参加者) 川原、鎗水、山下、田中静、下釜 松園、国分、高森 (元) 計8名
(行程) 4/29 西諫早駅発 6:30～金立～益城 I C～高森～高千穂～日之影～11:30 丹助小屋広場(昼食) 12:10～12:40 丹助山頂～天狗岩 14:00～丹助小屋 15:00～延岡(食糧買い出し)～17:10 大崩美人の湯(宿泊手続き)～17:30 公民館(研修棟)泊
4/30 公民館 7:00～延岡～日之影槇峰 8:10～比叡山林道～9:20 宇土内谷登山口 9:30～縦走路分岐～11:30 大崩山頂(昼食) 12:00～12:20 登山口 13:45～高千穂～高森～益城 I C～19:20 諫早着

(感想) 諫早出発時は7名で、マイクロバスは余裕である。益城 I Cを降りた先のテクノパークで国分さんと合流。高千穂の谷に架けられた橋をいくつも渡って、日之影町上下顔地区から狭い林道を延々と登る。諫早から5時間かけてようやく丹助小屋広場に着いた。離合難所だらけの林道からは想像がつかない広々とした登山口である。ここで昼食を摂って小屋の右下の道から登ることにしたが、小屋の左側から下山してきたパーティがいたので、帰りは同じ道を下って来ることにする。登り始めはゆっくりだったが、山頂近くは急斜面でロープも下がっている。30分で山頂に着いた。眺めは良いが松の木で肝心の矢筈岳は見えない。足場が狭いので早々に下山開始。周遊道らしき方向に進むと、岩好きには垂涎の天狗岩が待機していた。川原CLの「皆登らんば帰られん！」の指示に従い、怖い人には命綱をとってもらい全員登る。



岩遊びで小一時間費やしたが、この後、標識通りに降りた道が間違っており、登り返したりしたので随分予定を超過してしまった。延岡のスーパーで買い物をし、いよいよ「大崩美人の湯」へ向かう。祝子川沿いの狭い道路を松崎運転手の見事なハンドルさばきで登って行った。

17時を少し回った頃「美人の湯」到着。今夜の宿泊所になる研修棟で早速夕食準備に取り掛かり、鍋を火にかけてから入浴へ、ぬるっとした良い湯だった。

野菜たっぷりのちゃんぽん鍋やおつまみで満腹になり、お酒の余興で山開きの祝儀酒を1本割る騒動もあったが、21時半には大人しく就寝した。夜半から雨になる。

4/30 一晩中降り続いた雨は上がる気配がない。登る予定のコースは川の渡渉や岩場、梯子の連続で危険個所が多い。急遽、危険度が低い宇土内谷コースへ変更することになる。



このコースはアケボノツツジが群生しており、今の時期は登山者に人気らしい。

7時出発。昨日来た道を引き返す。日之影町榎峰から比叡山林道をひた走り 9時半に登山口到着。カーブと上下揺れの連続で車酔いの人が出た。

雨の時しか姿を見せないような細長い滝が、対面の高い岩から流れ落ちている。

登山口には我々のマイクロが1台だけ。「こんな雨の日に登る山ではないのか」と一瞬不安を覚えたが、新緑が肺胞の中まで染み透るように美しく、空気のおいしさに疑念は吹っ飛んだ。ここまで来たら我々だけでも登らねばなるまい。

登山口から案内標識に沿って右の林道に入る。しばらく林道を進むと杉林に入り、再度林道に出た。少し先に左の杉林に入る標識があり、落ち葉を踏みしめながら登って行くとすず竹が増えてきて尾根に出た。登山口から山頂までは 640m の標高差なので緩やかな登りである。尾根道を登り始めると、まもなくアケボノツツジが現れた。高度を上げるごとに群生している。新緑に 360 度淡いピンクの花が混ざり合っている。

こんなに見事なアケボノツツジは初めて見た。本コースに変えて正解だった。

急登箇所も花に癒されて登る。次第に風の音が強くなってきたが、すず竹のおかげで寒さを感じない。汗で濡れた体を冷やさないで済む。山頂近くになると交差する他ルートとの分岐が出てきた。標識を確認しながら山頂を目指す。

平坦な道に出て大崩からの登山道と合流した先で石塚に着いた。眺望が良いので登山者は大半ここで食事を摂るらしい。山頂は石塚から南へ 5 分の所にあった。何の変哲もないので集合写真を撮ってすぐ石塚に引き返す。適当な場所を選んで昼食を取った。小雨の中立ち食いである。風は収まっていたが、じっとしていると寒くなってくる。

下山は早い。川原CLの早い足取りにあまり遅れないで付いて下る。目線が変わるとアケボノツツジもよく見える。下りも最高。13時20分に登山口に戻った。

今日は松崎運転士を待たせないで済んだ。高速が混んでいるとの情報が入っていたので、高千穂の道の駅に立ち寄り、トンネルの焼酎蔵を見学したり、土産品を物色したりして時間調整をし、益城空港近くの駐車場で国分さんと別れた。17時過ぎに高速へ乗り、途中休憩しながら諫早へは 19:20 分に着いた。今回、雨で岩峰ルートは登れなかったが、アケボノツツジを堪能できたので満足！また紅葉の時期に登れば良い。

(記録松園)

5月4(金)～6(日)

五家荘の脊梁山脈 50km 縦走

(参加者) 福岡、川原、鎗水、國分、山下、田中(静)、森田(外)

(7名)

5/4(金)

(行程) 9:20 雁俣山登山口～10:16/10:24 雁俣山頂～13:09/13:39 京丈山(昼食)～
14:14/14:18 ワナバノ谷分岐～16:01 ワナバノ谷登山口～16:34 南平家山登山口
駐車場～17:20 しゃくなげ荘

(感想) 4時35分に川原さんの車で私の家を出発、宇都町のグランドパレスの前で山下さんの車と合流し、軽自動車2台で多比良港へ向かう。5時25分着。6時出港。久しぶりに乗る有明フェリーの内装がきれいになって客室が明るく豪華に見えました。

フェリーの中で下釜さんから差し入れのチマキを食べました。ごちそうさまでした。とても美味しかったです。

フェリーを降りて菊水から九州自動車道に乗り松橋で降り二本杉峠へ9時10分到着。

國分さんと合流してここから雁俣山、京の丈山、平家山に向かう5人を見送って私と川原さんは軽自動車を運転して平家山登山口へ移動。10時15分川原さんと二人で平家山に向かって出発。いきなり胸を突くような急登が続く。11時25分平家山頂上着。展望はあまりよくない。11時45分京の丈に向かって歩き出す。起伏のある道でけっこう疲れる。見晴らしは良くないが三つ葉ツツジの花に励まされなんとかワナバノ谷の分岐に着く。13時45分。縦走組みに無線を入れる。連絡が取れて、ここで待つ事にする。行動食をとりながら足元を見るとカタクリの花が一輪咲いていました。ここでカタクリを見られると思っていたので感動しました。14時15分縦走組みと合流。時間が遅くなったので平家山に行くのを止めてワナバノ谷を降りる事にする。14時25分出発。石ころの多い谷を下ったり長い急斜面を横断したり距離も長く神経を使う道でした。登山口に16時30分着。ここが終点ではなく平家山登山口まで車を取りに舗装道路歩く事30分。今日の山行で一番疲れたが、お宿に着いてすぐのビールが最高に美味しかったです。

今夜のお宿はしゃくなげ荘で周りにはしゃくなげの花が一杯咲いて私達を迎えてくれました。二階の部屋は私達だけということで空き部屋を利用してもいいということでゆったりできました。夕食は山菜、ヤマメ、鹿の肉、季節の料理等ごちそうがテーブルの上一杯に並んでいました。美味しかったです。幸福でした。明日の準備をして21時30分に就寝。

(福岡 政廣記)

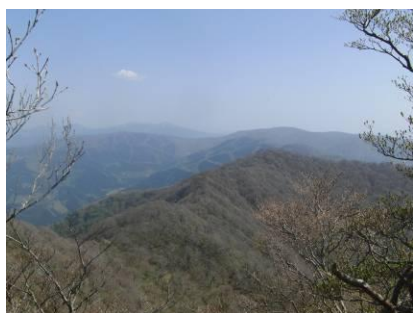
5/5(土)

(行程) 7:50 峰越登山口～9:15/9:20 白鳥山頂～10:40/10:55 時雨岳～12:00/12:40 時雨岳登山口(昼食)～13:00 烏帽子岳登山口(峰越登山口と同一場所)～14:50 五勇山分岐～15:00 烏帽子岳～16:30 本谷登山口～17:00 佐倉荘

(感想) 峰越登山口から白鳥・時雨岳までは緩やかな登りながら、前日の疲れでしばらくは足が重い。しかし、本日快晴で展望は良く、満開のヤマシャクヤクの群落が気を軽くしてくれる。白鳥山頂下に「平家残党 平清経住居跡」の碑がある。

末裔としては「平家残党」とは残念だが、御先祖様はこの庭園に囲まれて 800 年の夢を見ている事であろう。

午後、烏帽子岳登山口(峰越登山口と同一場所)より烏帽子



岳へ向う。1600m レベルの山稜を白鳥山と真反対のほぼ北に向かう。起伏をいくつも越えながら 2.0h で烏帽子岳に到着、皆健脚



で予定より早い。振り返れば遠くに白鳥・時雨岳と通ってきた山稜が見える。これより本谷登山口に向かって急降下、スズ竹やかん木にしがみつきながら必死の思いで下山、溪流を飛び越えたところで車で林道を迂回して迎えにきていた川原さんと合流。やれやれ！

でも冒険に満ちて楽しい二日目であった。(鎗水記)

5/6(日)

(行程) 8:05 佐倉荘～(車移動)8:45 小金峰登山口～9:02 小金峰分岐～9:13/9:19 小金峰～10:35 大金峰分岐～10:39/10:50 大金峰～11:34 大金峰登山口

(感想) 昨日と違い今朝はゆっくりの出発です。昨夜、川原さん達が小金峰へのルートを検討され、いちばん近いルートに決定。登山口から小金峰山頂へはエッ？と思う間に到着。山頂は狭い。すぐに下山して大金峰へ向かう。ブナの大木やカエデが道脇に見られるなか、落ち葉のクッションが足裏や膝に優しく、急登、急降下もない適度なアップダウンがこの三日間の縦走で最も優しいものとした。

大金峰山頂は残念ながら展望がない。前日夕食に出た小さい筍があり、しばし山菜摘み(?)をする。大金峰よりの下りも前日までと打って変わり、楽しいハイキングだった。下山後昼食。佐倉荘のジャンボおにぎりをほおぼる。

想像していた連休の混雑もなく、予定より早く諫早に帰り着いた。

50K縦走ということで、一抹の不安を抱えての参加だったが、やはり参加してよかった。急降下、ちょっと怖かった渡渉などあり楽しかった。運転をして下さった方々お疲れ様、そしてありがとうございました。(田中静 記)



「楽しい登山教室」を開催して

実行委員長 坂口 荘一

<開催に向けて>

4月21～22日に「楽しい登山教室」を開催し、その一環として5月12日にオープンの天山山行を行いました。教室の開催は2009年10月以来のことです。

近年の「オレンジ」会員数の動きを県連届出数で見ると2007年から2010年の3月までは常に50名を維持していました。特に2009年4月から7月までの4ヶ月は57名にもおよんでいました。ところがその後急激に減少し、2010年4月は46名、8月は40名、2011年の4月には35名、そして12月にはわずか30名となってしまいました。ほんの1～2年でこのような雪崩現象を起こした原因はわかりませんが「どがなかせんばいかん！」とあって、

あゆみハイキングクラブの受け売りで「山の文化祭」的な催し事を提起し、「オレンジ」の活性化を目論んでいたところでした。

そこへ鎗水さんという強力な賛同者が出現、昨年 10 月 24 日の「オレンジ」の全体集会で鎗水さんと私がそれぞれの案を提示する事になった訳です。集会の席で両案が承認され開催が決定、直ちに実行委員（鎗水、松園、川原、兵庫、山下、田中(静)、福岡の 7 氏と坂口）が選出されました。以来、10 回におよぶ実行委員会を重ねた結果、「楽しい登山教室」を開催することができました。

<楽しい登山教室>

教室は 2 日間を通して会場での展示と相談窓口を設け、その両日の午後 3 時間の講義を行う形式で開催しました。会場は「オレンジ」の歴史と近年の活動状況をパネルで示し、主要山行の写真や高山植物・動物の写真で壁を飾り、周囲のテーブルには山行用品やおれんじニュース、パンフレット等を多数展示、教室入口にはテントを設営して教室の雰囲気作りを行いました。

講義の内容は、登山の楽しみ、登山の効用、適切な装備、安全歩行とマナー、安全確保の技術、「オレンジ」の歴史と紹介等でした。講師の皆さんは限られた時間にもかかわらず簡潔で説得力のある話をなさいました。その熱意が通じたのか、受講者の皆さんに感想を伺ったところ大変好評を頂きました。尤もお世辞分を差し引くとどの程度かわかりませんが。

4 月 21 日は受講者 7 名、見学者 2 名、22 日は受講者 10 名（内 2 名は途中入室）、見学者 1 名でした。残念ながら受講者、見学者が期待したほど多くなかったのは、広報にかかる事前の検討が不足したためと思われる。今後の検討課題と云えるでしょう。

<天山山行>

オープン山行は 4 月 28 日に雲仙の矢岳・高岩山、5 月 12 日に天山の 2 山行を計画しましたが、雲仙は受講者の申込みがなかったので中止し、天山山行だけを実施しました。天山の参加者は受講者が 3 名、会員外が 2 名、会員が 12 名の総勢 17 名でした。

当日は最良の天候に恵まれ極めて楽しい雰囲気です有意義に過ごすことが出来ました。樹林間のさわやかな空気、草原からの絶景、路傍の草花の可憐さと美しさを楽しみ、食後にはロープワークを楽しく学びました。帰路は天山ダム側に降り、きゅうらぎ温泉「佐用姫の湯」で汗を流し、「道の駅厳木」で買い物に立ち寄り、夕方 5 時過ぎに諫早へ帰ってきました。受講者の皆さんの感想も大変好評で、貝津町の船津様からはお礼状までいただきました。

<むすび>

会員減を何とか食い止めたい気持ちを胸に秘め、「楽しい登山教室」は実行委員を主に全会員参加を呼びかけて取り組みましたところ、鎗水さんの献身的な活動に支えられ整った形で終了することが出来ました。今後、開催する際の参考になる形であったと思います。残念ながら、期待したほどの結果にはなりませんでしたが、今後に向け得られたものは少なくなかったような気がします。実行委員、当日の係、山行時の役割を務めてくださいました皆様のおかげで無事終えることができました。衷心より感謝申し上げて実行委員長を辞させていただきます。ありがとうございました。 (2012.5.15)

5月12日(土)

天山(1046.2m) 登山教室オープン山行

(感想)

私は、今回初めてオレンジハイキングクラブの登山教室に参加させていただきました。つい最近雲仙の国見岳や九千部岳に登り怖い思いをしたので登山に対して少し恐怖心を持っていました。また今までの登山は、頂上目指して登ることで頭の中はいっぱいでした。しかし今回の天山登山では、オレンジハイキングクラブの方々が出す草花や周辺の山の名前を教えてくださいながらゆっくり登ったので、今までに感じたことのないいろいろな感動をしながらすごく楽しく登ることができました。



ロープワーク講習では、レスキューの方法や仕方を数多く教えていただき、安全な登山をしていく為に最低限の技術を身につけなければいけないことがわかりました。そこでこれからも登山を続けていきたいと思っていますので、自分の腰にロープを結ぶ方法を年内までにマスターできるようにと考えています。また山の草花など勉強していき、より登山を楽しんでいきたいと思いました。

楽しい登山を体験させて頂き誠に有難うございました。(久保 陽子記)

お礼状

久し振りの山歩きで不安だったのですがオレンジの方の思い遣りのある指導で無理なく頂上まで登り下りも歩き方を教わり足の疲れも少なく、いろいろな山野草に出会い又帰りのバスの中では素敵な歌声に心が癒されました。

船津様より

5月13日(日)

雲仙新ルートを歩いて見て



北の風穴

この日まではお天気が良さそうと見越して雲仙新ルートを歩いてみました。島原市のジオパーク国際会議も始まり雲仙市街も少し活気づいていました。あざみ谷からゆっくりあるきました。足元の草花がきれいです。スマレやワチガイソウ等。紅葉茶屋から鬼人谷へ登って本日の新ルートの始まりです。初めてのコースはなんだかワクワク

クします。登山者も多いので急ぐ人は先に行ってもらってとにかくゆっくり歩きました。周りを眺めたり、足元を眺めたり。鬼人谷から15分ほどで「西の風穴」。涼しい風が吹き出ています。ミツバツツジと白い花が周りを色どっています。それから岩に張り付いたヤマグルマの巨木を眺めて先へ進みます。こんどは北の風穴です。ここではめずらしい苔類を多く見られます。鬼人谷から35分かかります。立岩の峰との分岐に来ると平成新山が真近に見る事が出来ます。そして昔あった、鳩穴への案内の印も岩に残っていました。ここからルートは平成新山と普賢岳の裾野を巻くように南へ向かいます。急な登りも続きます。30分程登って行くと立岩の峰展望所につきます。とりあえず登って周り的大岩を眺め先を行く人の道を確認しながら一旦ここを降ります。そしてこのあたりから周りの岩にはヒカゲツツジが咲いています。しかしこのヒカゲツツジの圧巻なのはレスキューポイント17番霧氷沢でした。

少し過ぎかけてはいましたが右の岩も左の岩もヒカゲツツジがびっしり咲いてて我々の疲れを癒してくれました。そして、普賢岳頂上へ。鬼人谷から80分かかっていました。ゆっくり歩いたせいか疲れていなかったので国見岳にも登り、原生沼のレンゲツツジを遠目で見て諫早へむかいました。今回、登山道の一方通行というのを初めて歩いたけど、紅葉茶屋へ下りてる時登って来る人に出会って「新ルートは歩かないんですか？」と聞いたんですが「ここから行けるんでしょう？」って言われて確かに行けなくはないけどね……。登山道の一方通行は、初めて訪れる人には少し解りづらいかも思いました。(山下 記)

登山には欠かせない耳よりな情報

春山の低体温症 連休期間中山岳遭難が続きましたね。長野県内で7名、岐阜県内で3名計10名が亡くなりましたね。どの遭難も死因は低体温症でした。

低体温症とは疲労凍死とも言われ、吹雪や激しい風雨など厳しい寒気にさらされた際、体の中心部の温度が35度以下になると起きるそうです。最初は体温を上げるために震え等の反応がでます。さらに体温が下がると意識障害が起き28度以下になると死に至る恐れもあるそうです。

かつて、低体温症は寒さが厳しい冬山特有のものと考えられていました。しかし、2009年夏、北海道トムラウシ山で登山者8人が低体温症で遭難死した後、標高の高い北アルプスなどでは「四季を通じておこりうる」と危惧する山岳関係者が増えています。

今年の北アルプスは連休終盤の3日から4日にかけて低気圧が通過し、一時的に冬型になり、その後も不安定な気象状況でした。連休中の北アルプスは時々冬山並みに荒れる時があるそうです。死亡した10名のうち8名が60代、70代でした。高齢者は体温を調節する機能が若者に比べて十分でなく低体温症にかかりやすいとされます。これからの季節でも気象予報をチェックし低体温症への備えもしておきましょう。(朝日新聞5月12日記事より抜粋)



大崩山
紀行



五家莊
紀行





白鳥山から時雨岳に向かう途中に一面ヤマシャクヤクの群落を見た 5/5

おれんじニュースNo267	
発行元	オレンジハイキングクラブ
発行責任者	福岡正廣
編集責任者 及び 原稿送付先	山下ちず子
発行年月日	2012.5.23
財政担当	
郵便振替講座	
ホームページ	http://orangehikingclub.web.fc2.com/